



みんなの力で明日の大町労山を造りましょう!!

2015年・総会の成功を!!



大町労山会員の皆さん。

年に一度の定期総会が来週に迫ってきました。日程調整は順調に進んでいますか？

この一年、色々なことがありましたネ。角田山の雪割草、穂高の南稜、募集山行の鍬ノ峰と京ヶ倉、そして、新しい会員が増えました。他にも各会員の皆さんはいろんな山に登り楽しんだことと思います。

さて、来年度はどうします？ 会山行について、技術の向上について、50周年行事について等いろんな希望があると思います。総会に参加してこれから1年の方針をみんなで決めましょう。

大町労山会長 谷口 伸二

100回・200日・260名 ~会・グループ・個人山行~

活発・多岐・多彩な2014年の大町労山の山行

総会議案より（抜粋）

I ; 2014年度・活動のまとめ

2014年度は、大町労山にとって多くの特筆すべき前進と課題があった。

第1に、個人山行が活発に行われ、山行回数は年間100回を超え、のべ参加は260名以上であった（資料参照）。海外山行や東北・北海道・九州等のロング山行等も多く、累計約200日以上の上り日数になった。

第2に、機関紙「大町労山だより」が毎月発行され、ほぼリアルタイムで例会等の内容が周知されると共に、会員の活動が相互に理解が深まった。

第3に、新人女性2名の入会により、山行の雰囲気も明るくなり、若返りが図られ、新しい大町労山の第一歩を歩み始めた。

第4に、初めて『大町労山を知る会』を行い、入会案内チラシを作成するなど、組織拡大に向けて新しい取り組みが始まった。

第5は、大町労山の会山行ではないが、5月の奥穂遭難には会員4名が参加しており、会員外との山行のあり方等で課題も明らかになった。（資料参照）

II ; 2015年度活動方針案

今年度、以下の点を重点として取り組む。

- ①様々な取り組みを行って会員拡大に取り組み、30名を越す大町労山を目指す。
- ②北アルプスリレー縦走や記念の集いなど、大町労山創立50周年事業を7月から来年に向けて行う。
- ③引き続き毎月機関紙の発行に取り組み、機関誌『ごんぞ』は年内発行で内容の差別化を図りながら、多くの会員の投稿に取り組み。



- ④引き続き春の『鍬の峰』、秋の『京ヶ倉』の公募山行に取り組むが、参加希望者の事前ミーティングや若干の”講習”などを行い、ツアー山行(連れて行ってもらう山行的要素を低め、また参加費の引き上げを検討する。
- ⑤山行については、会山行を月1回以上行くとともに、可能な限り企画予定を早め、一定の長期的計画をめざす。また、活発に行われている個人山行については、可能な範囲で例会も含めてできるだけオープンにし、会員にも呼びかける。
- ⑥例会の出席率を高め、スライド上映等を工夫して活性化を図る。また、『山の歌を歌う会』を5~6月に行うとともに、従来の『土曜例会』を会員の懇親会とし、時期を検討する。
- ⑦携帯メール等による会員間の連絡体制が不完全であり、一日も早くメーリングリストを完成させ、山行の活性化に役立てる。また、教育部など、各専門部の活動を活発に行う。

不可欠・急務 メーリングリスト作成にご協力を!!

事務局から会員の皆さんへ、また会員相互間で速やかに連絡を取り合い、山行計画等の情報を共有する上で、全会員のメーリングリスト作成は不可欠・急務なものとなっています。次年度に向けて、今すぐにリストを作成しようではありませんか!!

事務局に、PC または携帯メールアドレスを届けていない会員の方は速やかに~、遅くとも総会当日までに~メールアドレスを届けて下さい。

事務局長メールアドレス gyf06372@nifty.com 宛に空メールを送って下さるだけのことで携帯からも可能です。その際、必ず名前を書いて下さい。

葛尾城址公園

2015年2月15日(日)

記録者; 鶴川栄子

同行者; 白井 尾形 勝野 神津 谷口 鶴川(栄) 津田 土田 内藤 宮島

本来ならば、青木村の子檀嶺(こまゆみ)岳へ登る予定のはず…。当日、松川道の駅に参加メンバーが集合しました。しかし、空から牡丹雪が落ちています。久しぶりに11人も集まったというのに…。さあ、どうする…??

谷口会長『やめるじゃん』とあっさり…。勝野氏『まあ、行くだけ行って現地を考えようや』と…。その案に皆賛成し出発する。

大口沢の《ゆったり湯の里》で松本の神津さんと合流し、四賀経由にて青木峠を超えて登山口に向かうとするも積雪多く、勝野車の車高低くて進めそうもないので断念。取りあえず青木村の道の駅へ向かいそこで協議する。女性陣は話よりも地場産のお買物に夢中でした。

勝野氏の友人が通り抜け登山のサポートに来て下さるも、子檀嶺岳は見るからに積雪が多くやばそう!! ここまで来たからにはどこかに登りたい!! 焼肉もあるし…。

そこで我が夫がアイデアを出す。すぐ近く、坂城町の葛尾山、村上義清公の居城跡。1時間くらいで登れて山頂には休憩小屋もあるし、そこで焼肉をやればいいじゃん…と。丁度天候も回復して雪も止んでいる。計画変更して、坂城神社横の登山口へ向かう。コースタイム1時間くらいとのことだったが、まだか、まだか、との声しきり。運動不足気味の身体が悲鳴を上げているのかも…。

雪山の感触をかみしめながら、女性陣は張り切っている。このまま帰ってしまったら、悲しいよね。登れて良かった…。

山頂は展望も良く南に坂城、北に戸倉上山田の町が見渡せました。そして、何年振りでしょうか、大町労山定番の焼肉パーティー!! 新メンバーに《ここに、大町労山あり》を印象づけた感あり…かな。

登山口
駐車場横
の川にクレソンが生えており、皆のお土産になった。室賀の湯に入り、途中の坂井村の道の駅に立ち寄って帰途に就く。



我が思い出の山々

甲武信ヶ岳 ～ツッチーの引き出し・1960年代から

1963年7月26日～28日 参加者15名

第1日目～7月26日 天候：晴れ

夏でも早朝にモヤがかかり、寒い気がします。上町組が西川屋の前に集まって仲町の集合場所に行き、最後に私達下町の集合所である円乗寺に集まって与野駅まで行き、新宿駅から始発の甲府行きで塩山駅に降りました。

駅前でバスをいくら探しても見つかりません。バス停は駅前ではなくて駅前通りを行った左側でした。そのため、接続するバスに乗り遅れて1時間半も待たされてしまいました。

バスを終点の三富で降り昼食を食べて歩きだしましたが、真夏の太陽を頭上に受け、白く埃っぽい道をポクポクと歩き、眠っているような静かな広瀬の集落に着きました。

広瀬を過ぎると道は左手に流れている笛吹川河原に入っていきます。河原の照り返しが加わってクラクラするほどの暑さの中、ケルンを頼りにして歩きます。

道は笛吹川の河原から左岸につけられた木組みの橋やハシゴの道となり、緊張させられます。西沢の手前で再び河原へと降り立ちましたが、それまでのような照り返しはもうなくなり、衰えた陽射しと涼しげな空気が迎えてくれました。

16時過ぎになって幕営地を探してもらうために『先発隊』を出して先に行ってもらいました。その先発隊は東沢小屋の崖下の広い河原で待っててくれました。

幕営地は、水はあるし砂地なのでクッションは申し分なく、薪は河原に乾いた木がいっぱいあり、私たちの他に誰もいなくて、雨が降って増水しないかぎり最高の場所です。

テントを2つ張り夕食にしましたが、米を研ぐ時に砂も一緒に入ってしまったために銀ジャリならぬ銀ジャリでした。

円乗寺 5:00 - 9:30 塩山駅 11:00 - 11:50 三富 13:00 - 15:00 広瀬 - 17:30 幕営地

第2日目～7月27日 天候：晴れのち夕立

4時に目が覚めました。皆が起きてくるまでKと散歩に行きました。緩やかなナメ滝があったので登って見ましたが、10mも登れず降りることになりました。男達だけが起きだして朝食の用意を始め、段取りが出来る頃女性達が起きました。

いよいよ沢登り開始です。笛吹川東沢釜ノ沢と言われている沢だそうです。河原だったのが岩の間をかむような流れとなって傾斜を増しています。ちょっとル

ートが分からなくなると、その度にF先生に聞き、人数も14人と大人数のため、ゆっくりしたペースの登りです。

8mの魚留の滝は右手に釜を抱え、横を向いて落ち込んでいます。ルートは苔の生えた左手の岩を越えていくようです。登るにつれて右下の釜に飲み込まれそうな錯覚に陥ります。

登り切って待っていると後ろが騒がしく、ふり返るとSがずぶ濡れになっています。『滑って落ちた。でもザックが浮き代わりになって浮いたのでよかった』とのことでした。F先生が釜から引き上げたそうです。

この滝を越えると4段300mの長大なナメ滝が現れました。ナメのため威圧感はなく穏やかな美しい滝です。滝壺も浅く、サンショウウオが石のように貼りついていました。下で見ると滑りやすく思えましたが、実際はそれ程でもなくて快適に登れました。

いくつかの小滝を越えたり、巻いたりして水が伏流になった所で昼食にしました。ここで食べたモロキュウは最高でした。それまでは塩をつけて食べるだけでしたので新鮮でもありました。

再び歩き出しましたが、午前中のようにはいきません。歩くのに疲れたというか、動作がノロノロになりピリッとしません。ゴーロ歩きの単調さに飽きる頃、10mの滝が現れました。どう登っていいのか分からないのでF先生を探すと、左岸の上の方にいます。Sが滝壺に落ちたこともあって、KとEが怖くなって悪場を避け、大きく巻いて登っているようです。大きな声でF先生の指示を仰ぎますが、遠すぎて聞こえません。聞こえないので近寄って行くうちに合流しました。

下に降りるには高く上がり過ぎていましたし、KとEを再び核心部を行かせる訳にはいきません。そのためそのまま尾根へと出ることにしましたが、これが大きな失敗になりました。

続く



4段300mの乙女の滝



ドボンしたホラ貝の淵

第12回 拡大役員会から 3月10日(火) 出席者7名

1; 山行報告(2月拡大役員会以後)

- ① 2/15(日) 小檀嶺岳⇒葛尾城址公園に変更; 11名 山頂で焼肉パーティー
臼井、尾形、勝野、神津、谷口、鶴川(2) 津田、内藤 宮島
- ② 2/22(日) 北八ツ(蓼科山予定) 中止
- ③ 2/28(日) 唐松岳; 鈴木
- ④ 3/6(金) 黒斑山; 勝野+1
- ⑤ 3/7(日) 白馬落倉浅間山; 谷口・桑原

2; 県連総会(3/8)について…別紙議案書送付

3; 総会について(3/24 7:00) 議長: 書記:

●議論すべきこと、反映したいこと、希望(資料:今年度会議出席&山行集約)

a 2014年度大町労山の特徴・総括、特筆すべきこと

- ① 機関誌紙発行
- ② 女性入会
- ③ 奥穂遭難
- ④ その他:「大町労山を知る会」・入会案内チラシほか

b 方針に関わって…会の活性化

- ① 組織拡大~30名会員を目指す?
- ② 機関誌紙の継続、HPの更新
- ③ 山行企画と長期的計画、山行スタイル(個人山行と会山行等)
- ④ 春・秋の公募山行
- ⑤ 50周年事業具体化
- ⑥ 例会の活性化~土曜例会どうするか

●役員と専門部体制

●参加確認~全員出席を目指す~会費未納者ゼロへ

50周年事業案:特別会計予算化

- ① 記念山行(北アルプ縦走・7~10月 隔週程度); 担当:鈴木・勝野・小山
- ② 記念の集い(含・3人が語る); 担当:谷口・小林・桑原
ギャラリー(展示会等); 担当:森田・勝野
- ③ 『ごんぞ』50周年特集:創設時の記録・沿革史等も; 担当:井川・森田
- ④ 県連記念誌原稿
 - ① お勧め登山ルート: 鍬の峰・京ヶ倉・針ノ木~森田
 - ② 各会の紹介~谷口※携帯・PCでのメール確認 ※県連等の交通費・見舞金等

4; 当面の山行等について

- ① 3月28日(土)小遠見尾根; 鈴木・臼井 参加者募集中

5; その他

資料

2014年度活動方針(昨年総会議案より)

1; 山行について

- ・月例山行は、里山からバリエーションまで、オールシーズン月1回以上計画する。多くの会員が希望を出し合い、企画し、例会等で提案。できる限り2ヶ月くらい前、遅くとも1ヶ月前には計画を確定し、会員に周知する。
- ・多様な山域を求めて役員会で練り上げ、前夜泊山行やテント泊も計画する。
- ・夏山合宿を早期に決める。
- ・公開山行(一般募集登山)を春と秋に実施し、6月2日の一斉清掃登山(クリーンハイキング)の山域を早急に決める。
- ・山行計画情報は可能な限り例会や携帯メール等で多くの会員が共有できるようにする。
 - ・山行の交通費は、当面30円/kmと計算して、車提供者に参加者全員で負担する。高速料金は、ETC搭載車と搭載していない車の複数台で行く場合、合算して全体で均等負担する。

2; 例会の出席拡大と充実、拡大役員会

従来月2回開いていた例会の前半を拡大役員会とし、できるだけ多くの会員が参加し、山行企画や予定・希望等を出し合い、またスライドショーや学習的な内容も検討し、参加してよかったといえる例会になるように工夫する。
土曜例会は、3~4ヶ月に1回程度を目途に当面続ける。

3; 新人会員の拡大

組織の活性化は新しい入会者が増えることである。若い入会者を増やす努力をするとともに、中高年の入会も歓迎する。当面、会の紹介・入会案内チラシを山の店に置かせてもらう等の工夫をする。

4; 教育・訓練山行

県連主催の各種講習会に積極的に参加するとともに、大町労山独自にも訓練山行(岩トレ・雪上訓練・セルフレスキュー訓練等)を計画的に取り組む

5; 機関紙の定期発行

従来からの『事務局通信』の内容を含め、当面はA4両面サイズで、毎月発行を目指す。とくに、形式にとらわれないで山行記録を載せていく。

6; 会員情報のデジタル化とホームページの工夫

現在の電話・fax・「事務局通信」はがき中心の連絡から携帯電話によるメールを含めて検討する。メーリングリストを早期に作成(PCまたは携帯)し、会員相互の連絡および事務局からの連絡がリアルタイムでできるようにする。 以上